

三校合同演奏会を開催

松浦市小・中学校音楽連盟は10月10日、松浦市文化会館で松浦市中学校音楽会（三校合同演奏会）を開催しました。

今年は、規模を縮小し、御厨中、志佐中の吹奏楽部と福島中の音楽部が合同で演奏しました。当日は、45人の生徒が参加し、日頃の練習の成果を披露しました。

この日は、昨年ふるさと納税制度で楽器を寄附した人たちも招待され、市内外から3人が出席。生徒が奏でる美しい楽器の音色に耳を傾けていました。



清掃活動で地域に貢献！

株式会社九電工松浦営業所（川久保俊一所長）は10月16日、松浦市勤労青少年ホーム施設内空調機の清掃活動を行いました。

同社では、10月12日から23日までを「さわやかコミュニティ旬間」とし、社会貢献活動の一環として毎年清掃活動を実施しています。この取り組みは今年で52回目となりました。

この日参加した社員らは、新型コロナウイルス感染防止に十分配慮したうえで作業を行い、川久保所長は「市民の憩いの場として地域の皆さんに気持ち良く利用してもらいたい」と話しました。



御守りで駅伝応援！

株式会社エミネントスラックス（前田周二社長）は10月29日、松浦高校陸上競技部24名へ御守りを贈呈しました。贈られたのは、淀姫神社（志佐町）の御守りを、高校の制服にも使われている世界で唯一のチェック柄「松浦タータン」の生地で作った特別な御守りです。

部員たちは11月6日、雲仙市で行われた長崎県高校総体駅伝競走大会に、御守りを付けて出場。優勝した鎮西学院と1分13秒差でゴールし、惜しくも準優勝となりましたが、6区の山本羅生選手が区間新記録を樹立するなど活躍しました。



お茶の淹れ方教室

JAながさき西海松浦茶業部会（松本敏明部会長）は10月28日、「お茶の淹れ方教室」を開催しました。この教室は、家庭で急須を使ってお茶を飲む習慣を次世代へ後継するため実施されています。

この日は、生産者である井手眞悟さん（上志佐・稗木場）が福島養源小学校を訪れ、おいしいお茶の淹れ方を教えました。

児童たちは、茶葉の量や湯の温度などに気を配りながら学んだ方法を実践し、地元のお茶を味わいました。



星鹿くんちが行われました

今年のくんちは各地で神事のみ行われました。星鹿地区では11月5日、星鹿くんちが開催され、この日は羽黒神社から星鹿港まで、神輿とともに町民が練り歩き、無病息災、豊作・豊漁を祈願しました。お下りの後、神輿を載せた船を先頭に、国旗や大漁旗を掲げた漁船約20隻が、星鹿沖を周回し、海上の安全と大漁を祈願しました。

また、星鹿港では宮日にあわせて、星鹿保育園の園児によるマーチングが披露されました。



海岸をきれいに！

松浦市地域婦人会連絡協議会（榎元あや子会長）は11月1日、道の駅「海のふるさと館」周辺の海岸で、清掃活動を行いました。この日は、会員38人が参加し、海岸に流れ着いたゴミや流木を拾い集めました。1時間ほどで約30袋のゴミが集められ、みるみるうちに海岸がきれいになりました。

榎元会長は、「この様な活動を行っていることを多くの人に知ってもらい、少しでもゴミを捨てる人が減ってくれるといい」と話しました。



青のまち松浦 元気な輪プロジェクト

まつり実行委員会（小松英史会長）は10月24日、「青のまち松浦 元気な輪プロジェクト～抽選会&花火～」を開催しました。

このプロジェクトは、新型コロナウイルスの影響から、「松浦水軍まつり」、「福島ふるさとまつり」、「鷹島モンゴルまつり」などのイベントが中止や縮小、自粛が相次ぐ中、少しでも町や人を元気にしたい！という思いが結集し、7つの町がつながり実施されたものです。

各地区ごとに抽選会を行い、当選した人たちへ地域の特産品などの賞品が送られました。また、夜には市内7町で一斉に花火が打ち上げられ、同時にいくつもの花火が見られるなど貴重な1日となりました。



▲今福で打ち上げられた花火

写真提供：中尾彰博さん



▲調川会場は公民館で賞品を受け渡し